

## 夏から秋へ

### 雑木林を楽しむ

秋の始めはバッタやコオロギなどたくさんのお虫やツルボ・ヒガンバナ・ハギなど可愛い花も見られます。

市内では雑木林や多摩川の河原に多くの自然が残っています。さわやかな空の下、自然を見つけにでかけてみませんか。



こっちの付け爪はなんのお腹？



オシャレな付け爪 アカスジキンカメムシ



オンブバッタ

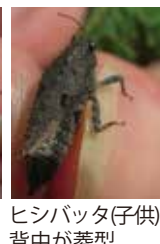


ヤブキリ 可愛いけど肉食です

夏の間は刈っても刈っても草だらけのドングリの苗畑。皆で草刈りの合間に見つけたのはなんの虫？



エンマコオロギ エンマ様の顔



ヒシバッタ(子供) 背中が菱型



9.20 サイクリングロードから見渡せる真っ赤なヒガンバナ



左メドハギと右イタドリの花、地味だが美しい。



南方に多い ナカグロクチャバ 温暖化の影響か



定番の ハラビロカマキリ



シロテンハナムグリ 花より樹液が好きだとか



ナガコガネグモ お腹から見た所



アキノエノコログサ



ママコノシリヌグイ



ワルナスビの実 確かにナス似



ワルナスビ 美しい花にはトゲがある



ツルボ

## 多摩川で見つけた！



ピンクのナキイナゴ(子供) 9月6日 環境モニター観察会で発見！ バッタ類は何故か稀にピンク色の個体が表れるらしい。皆で観察するとこんな驚きに会える。

秋は左の写真のように薄紫色の花が目につく。春は明るい黄色が目立つのと対照的に落ちていた色合いがさわやかな青空にピッタリ！



アレチヌスビトハギ



イナゴ

オサムシ 普段は見過ごしているがよく見るとシックな色合いがすてき



こんな竹ポットを作って エコノキの種をまいた 右下のスコップも手作り



9月13日カニ山の会では一般会員メンバーと応募会員がいつしよにドンダリの森の草刈や虫探しその他、たくさん楽しい体験をしました。合間にはロープを使ってこんな楽しい遊びも！ 自然観察その他、楽しい事ながら保全活動に参加しませんか。

## 花の履歴書 29

戸部英貞 (絵・文)

### カヤツリグサ (蚊帳吊草) カヤツリグサ科



Cyperus microiria Steudel

花茎を引き抜き、先端部の花を切り捨て、三角形をした茎の両端から二つに裂いていくと、四角な棒が出来上がる。その形が蚊帳を吊った姿に見立てた遊びは誰もが幼い頃に一度は経験した「蚊帳吊遊び」で、この植物の名前の語源となっている。

ツリグサ科のパピルス茎を使ったもので、今でもナイル川の岸辺には背丈ほどに生い茂っているのだから、紙(ペーパー)の語源の植物であることを知る人はどれだけのいることか。

稲穂が頭を下げ始めた田んぼの畔道を歩きながらカヤツリグサを採って、子供たちと一緒に「蚊帳吊遊び」をやってみたが、蚊帳を見たことのない子供たちにとって、茎を裂いた四角い棒から蚊帳を連想することは難しく、反応はいま一つだった。

文明の発達が生活の様式を変えるのを否定するつもりはないが、秋でもないのに、道端に生えたカヤツリグサやエノコログサ、アカマンマが一面黄色く枯れているのを見るたび、こんな無差別な枯らし方をしないで、散歩の小さな楽しみを残してくれるような粋な計らいがあつても良いと思うのだが…。

子供たちだけでなく、蚊帳を吊った生活を体験したことのない世代は、こんな遊びを知る人も少なく、観察会などで紹介しても、かなり年配の方たちは懐かしく挑戦するが、若い世代の人たちの反応は乏しい。

世界で最初に作られた古代エジプトの「パピルス紙」は同じカヤ

草の名前の語源を説明するのも困難な時代になってしまったが、雑草と呼ばれる道端の草を摘んで遊ぶ草花遊びを過去の遺産と葬ってしまったくないで、もう一度子供たちの世界に復活させ、素朴でナイーブな心を育むことも、大人に課せられた大切な役割のように思う。

## やったことあるかな？ 昔の遊び

ショウリヨウバツタの機織り  
こんな風になる脚を持つてゆらゆらさせるとバツタが機織りをしているように見える。

カヤツリグサで作った蚊帳  
茎だけとって上から二つに裂いたら、もう一度、今度は下から裂く。集中しないとむずかしい。



↑うまく四角く  
なったら完成



### 田んぼの学校 稲作とすずめ

私たちの田んぼですずめ対策として防鳥網を張るようになったのは2009年からでした。その前年から被害が拡大し、防鳥網を張りましたが、人目が遠い田んぼの奥は全部食べられた株がほとんどという事態になりました。毎日のように数十羽のすずめがたつた百坪の田んぼに來られたらたまりません。翌年からは、側面も網をかけ、全面を覆うようにしました。もちろん、案山子にもお世話になっています。今年は16体が田んぼを見張ってくれています。

(田んぼの学校校長 尾辻)



## 昔の多摩川… ④

### ◆榎本勉さんのお話

昭和13年上ヶ給(国領町あたり)生まれ  
多摩川はかつて台風のため増水するこ  
とが多かった。

昭和22年9月14日カスリーン(キャサリン)台風が來たとき、二ヶ領上河原堰の所が10mほどけずられたのを見たことがある。出水の時は秋川或いは青梅の方から太い丸太(太いもので直径2m)が沢山流れてきた。その後、多摩川の資料を色々見たがそういう写真は発見できなかった。

流木は今の染地の五本松の辺りと五本くらい松がある「上げ給河原」と呼ばれた辺りにひっかかるのでそれを引き寄せて持ち帰る人もいた。

流木の写真は昭和57年10月に撮った。これは長年砂に埋まっていた木がその年の8月2日の台風10号により地上に現れたのではないかと思う。

材木は焼印で持ち主が分かるらしいが、最終的に河口で回収されるんだろう。多摩川付近に材料置き場があったのではないかと思うが昭和32年11月に小河内ダムが出来てからは流れてこなくなった。



※こんなのが流れてくるなんて驚きた。右先の部分は誰かが切って持って行った。対岸の中之島側にも半分うずもれた大きな流木があった。

# 調布水辺の楽校

8月30日(土) 曇り 参加者15組30名  
スタッフ16名

調布水辺の学校では、今年も二ヶ領上河原堰横にて多摩川流域7小学校を対象に川遊び体験を行いました。

今回、朝は雨の心配もあり布田小の理科室でアユの観察・水中カメラ映像・鮎産卵ビデオ映像の観賞や水槽での魚の説明、川遊びの安全講習を受けました。

その後雲の切れ目から青空ものぞくようになったので、河原へ移動。天候不順で気温・水温も少々低目で川流れは中止となりましたが、そこは児童達、元氣いっぱい「ガサガサ」を行いました。

## アドベンチャー in 多摩川 2014

短時間でしたが13種類の生き物を確認し、ライフジャケットを着たまま泳ぐ児童たちもいて、とにかく楽しめました。

身近な多摩川、もっと沢山の体験をして楽しみたいしょう！

(水辺の楽校サポーター池ノ内)



確認した生き物: シマドジョウ、アブラハヤ、ギンブナ、モツゴ、メダカ、スミウキゴリ、ヤゴ(コオニヤンマ)、ヌカエビ、ミナミヌマエビ、ザリガニ(脱皮中)、稚魚多数(オイカワ・アブラハヤなど)、ヒメゲンゴロウ、アメンボ



## ちょうふの崖線樹林を守る

### 入間・樹林の会

8月17日(日) 晴れ 参加者9名  
雑木林広場の通路より上の下草刈りを行った。晴れていたが林の中はちょうどよい気温で作業がはかどった。駐車場側からゴーヤなどのツル性植物が繁茂しヤブ化していたのを伐採したので、すっきりした。ごみの放置がなくなることを期待したい。市が新たに借りた民有地も見通せるようになりヤブランなどの花が目立つようになった。



ヤブラン



すっきりとして満足なメンバー

9月21日(日) 晴れ 参加者9名

樹林地内の通路柵とロープが付け替えられていた。二手に分かれ雑木林広場通路下側のアズマネザサ刈りと、駐車場側民家側のヤブ化した林の伐採をした。ツタやヒヨドリジョウゴがからみついた木々の伐採とサネカズラを根っこから引き抜くと、ガマガエルが飛び出し小学生が喜んで捕まえていた。奥の柵まで見通せるようになりすっきりした。作業中、スズメバチが数匹飛んでいたのに注意をするよう声をかけあった。ツルボが初登場し今後花が楽しめるかもしれない。(安部)



作業に迷惑なガマガエル



トネアザミ



見通しのよくなった小道

### カニ山の会

8月9日(土) 晴れ 参加者8名  
8月としてはしのぎやすい日。2班に分かれドングリ苗圃近辺の草刈りや東樹林のササ刈りと樹木剪定を行った。東樹林は樹幹が閉塞されているが、高木の伐採許可がとれないため、さらに大枝を切つて樹高をおさえるのがよいかもしれない。草むらにはバツタやオサムシの他マメコガネが沢山いて苗木の葉っぱが食い荒らされていた。



9月13日(土) 晴れ 参加者9名

一般参加者3組5名+講師

定例活動に替えて「森づくりパート7 バツタが跳び出す草刈り&ポット苗づくり」イベントを実施。

竹ポット苗は、過去2回はドングリを拾ったが、今回は時期が早かったため事前に採取したエゴノキの種を使った。エゴノキは、カニ山でも衰退の一途を辿っている樹種。種を植えた竹ポットは持ち帰ってもらい、芽が出るまで土が乾かない程度に水遣りをお願いして解散した。

前回までのイベント参加者にお知らせして草刈・虫とり・プランコ乗り・モグラ穴の観察など楽しい一日になったが、もっと多くの方に参加してもらいたかった。次回はPR方法を工夫する。

※東京の緑を守る将来会議から取材あり。(E&K)



### 若葉の森3・1会

8月3日(日) 晴れ 参加者6名  
8月の作業は休みですが、猛暑の中で約1時間、調布市緑と公園課職員及び受託会社の方計5名と、第1緑地と第2緑地の「樹林地保全方法調査・検討」に関して、事前の設問「1緑の管理方法、2利活用内容、3今後の目標や希望」に対する回答をもとに現地で見聞交換を行いました。更に、第4緑地も同様に実施。市側がこの検討会を踏まえて保全計画案を作成し、再び当会と話し合うことになりました。



市職員他と保全方法等について意見交換

9月7日(日) 雨天中止参加者1名  
雨天のため中止となりましたが、1名の方がゴミ拾いを実施。感謝。

9月21日(日) 晴れ 参加者4名

25日の東部児童館のイベント活動(第1緑地で落葉・小枝を使った工作)の連絡が調布市からあり、事前(臨時)にゴミ拾いとコンポスト柵の補修を約1時間行いました。

なお、今回は残念ながら雨で中止になりましたが、児童館が今後この緑地をどんな活用されることを希望します。

◆保全活動用の道具として区分柵部品、棒、ロープを調布市に要望(N&O&K)



小枝・ゴミ拾い(臨時日)

ちょうふ あちこち

深大寺五差路西あたり



カラスノゴマ

深大寺五差路近く、「赤道（あかみち）」と言われる小道にカラスノゴマが一本、黄色い花を咲かせている。数年前までは毎年秋になると電通大東側の道端にたくさん出現していたので「無くなる前にどこかに種を撒きたい。」と思っていたの

が、ほんの少し通り道を整備するための工事で、あつという間に消えてしまったのだった。それが数年ぶりに調布市内で発見。なんだか怠惰な私を励まして「ここにきたよ。」と言ってくれているように妙に嬉しい。希少種というわけでもないらしいが、多摩丘陵でもあまり見られないという。深大寺周辺は散歩道としても楽しい所。地味な野草が生き残れるような環境は大事にしたい。モロヘイヤの仲間で見えた目も良く似ている。アオイ科カラスノゴマ属

見事なモノマネに拍手！  
因みに左は我が家に入ってきたスズメバチ。退治した後も触るのが怖いから、の、恐ろしい顔。



「ダイミョウセセリ」セセリチョウは翅を開けるとまることが多いのに対し、このチョウは翅を広げるとまることが多いようです。



「ヒカゲチョウ」これも目玉模様で身を守っているらしい。



「スズメバチでしょ」  
いいえ「コシアカスカシバ」



「コスズメ」の幼虫小雀にあらず。体の横に4つの眼状紋。目玉模様は敵をおどろかす効果があるとか。森の迷惑もの「ヤブガラシ」が好物です。

この虫なあと

写真と文章：中原&綴治

11/8 (土) 多摩川自然情報館祭り

手作りクラブ

●植物のつるで手作り教室  
クリスマスリース・ハンギングバスケット

ちょうふ環境市民会議の準備をして臨みます。もブリスを担当します。リボンや木の実などの提案は子供達が次々訪れ、供大歓迎！教えるスタッフはへばり気味。今回は事前に多摩川でクズのツル採りなど



自分で作ったリースは楽しさ倍増！



お母さん達はハンギングバスケットに挑戦。日持ち良い植物をお洒落に飾って

●12月 田んぼの学校の稲わらを使って  
正月用しめなわ作り



田んぼの学校校長に教わりながら佐須の田んぼで収穫した稲わらを使ってリース風しめなわを作ります。カニ山キャンプ場で行いますので完成したあとは野外料理も計画しています。詳しくは市報またはWEBで。

編集員募集！

自然環境の保全活動に興味のある方。野生の動植物が好きの方。そして写真や文章を書くことが好きの方。ぜひ自然だよりの発行に協力をお願いします。（PCで写真やファイルのやりとりが出来る方なら尚可）いつでも環境市民会議へ連絡下さい。

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

●10/19 (日) 9:30～12:00  
●11/16 (日) 9:30～12:00

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

●10/11 (土) 10:00～12:00  
●11/8 (土) 10:00～12:00

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●10/12 (日) 9:30～12:00  
●11/9 (日) 9:30～12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●10/5 (日) 9:30～12:00  
●11/2 (日) 9:30～12:00

先の4団体の保全活動は「調布市との協働」で行っています。問合せ：緑と公園課 042-481-7083

環境モニター

●11/30 (日) 9:30～12:00  
「深大寺の樹木・植物と古いお宅を訪ねる」  
集合：深大寺 山門  
参加希望者は11/28昼までに環境政策課：042-481-7086へ

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が発行しています。隔月で1000部発行。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載。市民会議ホームページにバックナンバーを掲載しています。併せてご覧下さい。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

“自然だより”の置き場所

◆地域福祉センター、たづくり 11F みんなの広場、調布市環境部（市役所 8F）、あくろす 2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、野菜食堂みさと屋（布田）、ニワコヤ（仙川）、ウェアハウスガーデン（柴崎）など。置き場所&応援カンパ募集中です！

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載しています◆